

# フォレスト ウィンズ Forest Winds

No.28 2007年3月



独立行政法人・森林総合研究所・東北支所

## ノッポの木・ズングリの木

高く伸びる生き方、横に広がる生き方

ある朝、僕が林の中を歩いていると茶色の野良猫が近づいてくる。いつもこちらが声をかけてもららりと見ては逃げ出すやつだ。どうした風の吹き回した。聞くところやら近頃困っているらしい。原っぱの2本の大きな木のことだ。「すらりと高く伸びた俺が立派だ」、「ズングリと横幅広い俺が偉い」とゆずらないらしい。どこかの「ズングリと山猫」みたいになってきたぞ。面白い。あとをついて行くことにした。



### 樹木という生き方

なるほどこの2本だな。猫が困っているのだから、僕は2本の木に向かって話し出した。



写真上 ズングリの木 オニグルミ (クルミ科クルミ属)  
幹は途中からはっきりしなくなり、そこから上は何本もの太い枝に分かれている。

写真左 ノッポの木 ヤマナラシ (ヤナギ科ヤマナラシ属)  
1本の幹が柱のようにぐっぺんまではっきりしている。

「うーん。だけどノッポだズングリだのと大きさを競ってみても、あなた達、木よりも、小さな草の方が本当はずっと優れている。草は、光合成の不得手な幹より、稼ぎ手である葉を作ること大切にする。木が木であるのは幹を作ることより大切にするからだ。木はそれ故に大きくなれる。しかし無駄なく稼ぐとなると幹の割合が少なく葉の割合が多い草にはかなわない。

木に利が出てくるのは周りに光をめぐる競争相手がいる場合だ。光は大なり小なり上から来るから、小さいと陰になって稼ぎが無い。木が大くなるのは陽の当たる場所をめぐる陣取り合戦のためだ。つまり大切なのはどんな場所で暮らしているかで、それによって結果が変わる。ノッポがいいかズングリがいいかによって同じことだ。」



草 カタクリ (ユリ科カタクリ属)  
緑色の葉は樹木の葉より暗いが支トがり、茎の割合も樹木に比べて少ない。



## ノッポの木とズングリの木

「太陽が高く昇らず横から差す北国では縦に長いノッポの方が、太陽が高く昇り真上から照る南国では横に広いズングリの方が光をたくさん受け止められる。林の中の若い木の場合、そばに大きな木がいなくて空が見えるなら上に伸びてノッポになった方が、そうでないなら今と同じ高さでしっかり光を受け止められるズングリになった方が稼げる。明るい場所では何層にも葉を着けられるので上下に長いノッポの方がいいし、暗い場所では一層しか葉を着けられないから横に広がるズングリの方がいい。上に伸びるほど風は強くなるのが普通だから、風当たりが強い場合には横に広がったズングリの方がいい。ノッポとズングリ、それぞれ長短があって、時と場合でどちらが良いのか変わってくる。どちらも捨てがたく、どちらも立派で、いろいろな形があるのがいいことなのだ。」

## 枝分かれの仕方と木の形

「あなた達がいろいろな形を作り出せるのは、あなた達の枝先の小枝、一本一本のおかげだ。小枝のそれぞれが伸びて枝分かれし、さらに伸びることを繰り返す。そのやり方の違いのおかげだ。」

小枝の先端から伸びた娘枝が、その小枝の他の娘枝に較べて長ければ長いほど木はノッポになるし（図1 a）、長さの差が小さければズングリになる（図1 b）。母枝の先端から伸びる娘枝は母枝と同じ方向に伸び、いわば本家の後継ぎになる。他の娘枝は枝張りを横に広げる分家の枝だ。本家の娘枝は分家の娘枝よりも太いし葉も多い（同じ長さの娘枝どうしで較べてもだ）。枝分かれの仕方の違いには、母枝上での位置に応じた、こんな風な娘枝間の性格の違いが大切だ。

枝分かれの仕方の違いには、小枝どうしの長さの違いに応じた役割分担も大切だ。長い小枝は木の形の大枠を作るのが役割だ。短い小枝は、この大枠の隙間をうまく埋めて、無駄な空間や葉の重なりがないようにするのが役割だ。だから長い小枝はたくさんの娘枝を作るし、娘枝の長さも長い（図2 a）、短い小枝は短い娘枝を少しだけ作る（図2 b）。性格や役割の違い小枝のそれぞれが適材適所にいろいろな場所、いろいろなやり方で枝分かれをすることで、あなた達は自由自在にいろいろな形になることができるのだ。」

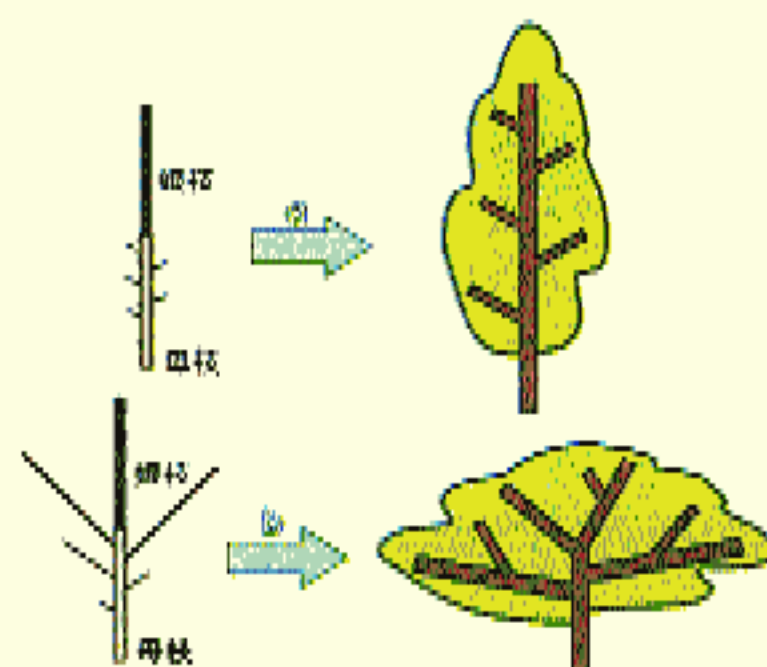


図1. 枝分かれの仕方と木の形の違い。枝分かれの仕方が違ると、出来上がる木の形も変わってくる。



図2. 小枝の長さで枝分かれの仕方。木の中での位置によって小枝の長さは異なり、枝分かれの仕方も変わってくる。

聞いていた2本の木々は、自分たちの指先の小さな枝々を畏敬の念でじっと見つめ、枝の先のさらにその先に広がる小枝の指の先々にまで、朝の原っぱの冷気を行き渡らせ、そして、ともに胸を張ったように見えた。

## 後日談

あれからも相変わらず猫は逃げ出すが、瞬間会釈をするようにも見える。多少は気もつかっているようだ。原っぱの2本は相変わらず掛け合い漫才のようだ。どうやら納得ずくで、そんな風になっているのが楽しい2本の仲であるらしい。

(写真提供：濱津ミサノ【猫】；八木はるな【ノッポの木】)

## 森林総合研究所東北支所

T020-0123 盛岡市下田川字鍋倉敷82-25  
TEL 019-841-2150 FAX 019-841-6747  
ホームページ <http://www.ffpri.thk.affrc.go.jp/>

●森林生態研究グループ 八木 貴信